

# 郵政民営化で 国営銀行をつくろうとしている

いつの間にか郵政民営化は骨抜きになり、今は看板を掛け替えることだけが目的になっているといわれています。民営化といいながら郵貯は国営銀行に、簡保は国営保険会社になる、と警告する山崎養世さんに、民営化がどう進もうとしているのかを解説してもらいました。



—特殊法人には、いい民営化と悪い民営化があるとのご発言がありますが。

**山崎** きちんと本質をとらえて、民間と同じシステムに体質改善する民営化と、看板を掛け替えるだけで何も中身の変わらない、あるいはさらに悪くなる民営化があります。今回の郵政民営化は、悪い民営化といえます。

小泉純一郎首相は、1999年、超党派でつくる郵政民営化研究会の会長として、『郵政民営化論』(PHP出版)という本を書いています。そこで、彼は郵政民営化の本質を自身の言葉で語っていますね。いわく、「税金を使って各特殊法人に投融资を行う国営金融機関・財政投融资制度の抜本改革につながる」「この改革は、郵政省のみならず大蔵省(当時)をはじめ、全省庁がいやがる改革であろう」「だからこそ、郵政民営化は、全役所、全官僚、つまり現状維持力との戦いであり、本格的な行政改革の第一歩なのだ」と。

はつきりと、郵政民営化とは郵政だけの問題ではなく、財政投融资制度の改革

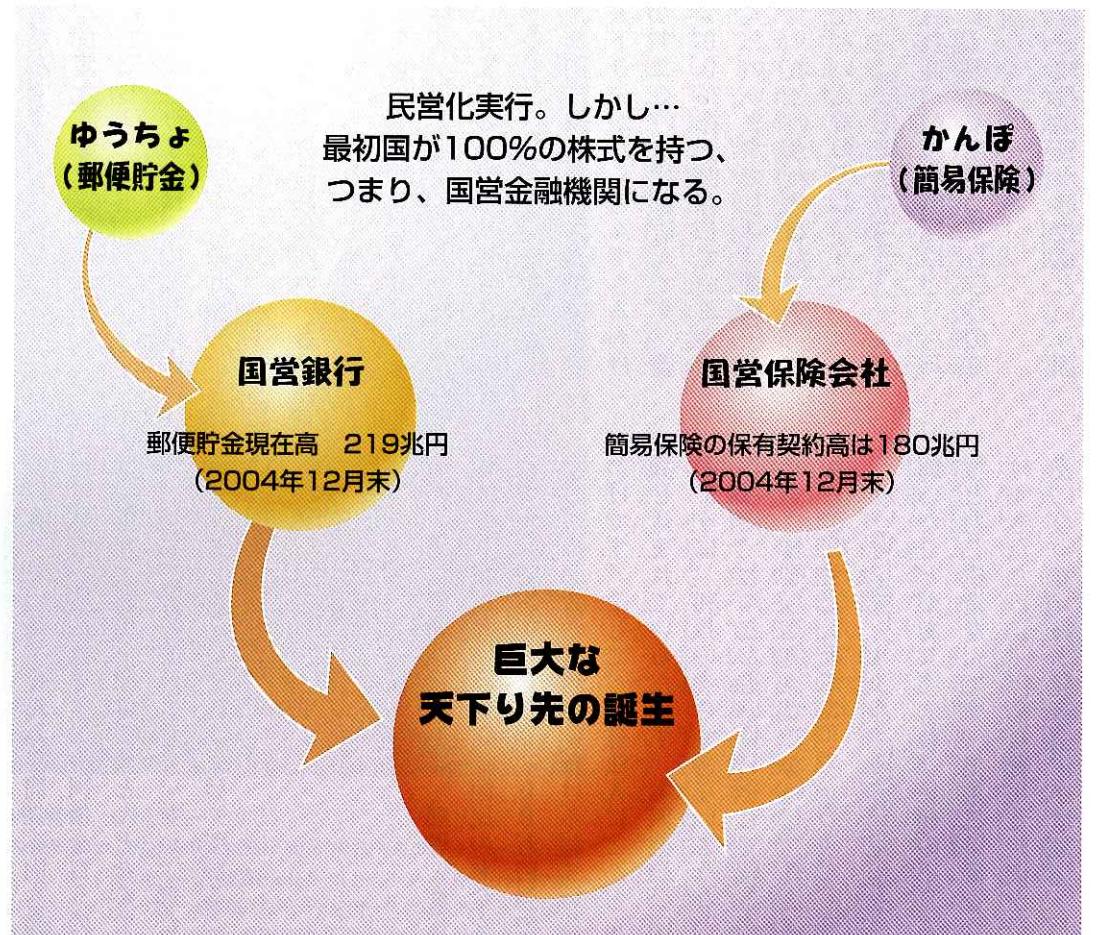
なのだ、と言っていたはずです。それこそが、僕も改革だと思いますし、そのまま進んでいるならば、反対しません。

## 民営化の目的が いつの間に変わった

ところが、どうでしょう。看板は同じ郵政改革、郵政民営化ですが、中身はまったくの骨抜き。それどころか、さらに悪くなっている。家を建てるとき、設計図を見て納得したのに、建築の段階で仕様書が違っていた、という感じなのです。あれだけはつきりと、財政投融资の問題だからメスを入れると言っていたのに、すでに財政投融资の話はまったくされていない。

国民が小泉さんに期待したのは、小泉さんがこの破たんしかけている財政をどうにかしてくれると思ったからです。財政破たんのカギである財政投融资にも手を突っ込んでくれるはず、と。僕自身もそうでした。郵政の民営化にしても、國民自身が郵政事業に何か不満があるわけではなかつたし、郵政事業に対して税金

## 郵政民営化で国営金融機関をつくろうとしている



めの民営化なんですかね。

今は公社ですから、安全な国債を買ったり、国に預けたりして、基本的には損は出ない仕組みの中にあるんです。貸付業務の経験の豊富な銀行でさえ、長い間不良債権に悩まされていました。それが、経験のない人に巨額を任せたら、どうなるのだ、という話なんです。

今は郵貯も簡保もつぶれません。縛りがあって、安定した貸し出ししかできなからです。だから、破たんしていなんです。今後は破たんするようになります、ということなんですね。

これには裏がある。今まで、国民の税金を使って銀行に公的資金を注入してきましたね。全部で40兆円近くあるんです。これが回収できそうにない。そのままでおいたら銀行と金融庁や財務省の責任になってしまいます。どこかからその資金を持つてきて、埋め合わせをするんですね。これから郵貯は預金保険機構にも加入させられるわけですから、ここを使つ

が投入されているわけでもない。それでも、郵政民営化をやらなければならぬのは、財政投融資の問題なんですよ。それをやらないのなら、何のためにやるのかわからないんですね。じゃあ、なぜやるのか。それは郵政民営化をやる、という約束をしたからです。

—郵政民営化は、小泉さんに長年取り組んできた問題ですよね。自分の政権なのですが、当初の公約どおり自民党をぶつぶしてもやれるのではないですか？

**山崎** たぶん、小泉政権の延命に舵を切り替えたのでしょう。それに、中身は別物でも、「郵政民営化」という名前は残っていますからね。昨年9月に「郵政民営化の基本方針」が閣議決定されました。これが、小泉さんが以前言っていたものと、全く違っているんです。

### 財政投融資の改革こそ

#### 本来の目的だ

なぜ僕が、財政投融資の問題に固執するのかといえば、これは郵貯だけの問題ではないからです。郵貯、簡保、年金の

お金が全部で360兆円も国に預けられている。具体的に言えば、財務省理財局に預けられている。ここがお金を道路公社などの特殊法人に貸しているんです。そのお金が返ってこない。つまり不良債権になつていています。財務省へのいわば預金にすぎない。郵便局がお金を貸して損をだしているわけではないんです。

そこを基本方針が示していない。財政投融資の問題をしないで、郵政だけ民営化するのはおかしい。それなら、年金も民営化したらどうでしょう。不良債権の貸し手である財務省と借り手の特殊法人をそのままにすれば、国民の損失はふくらむのに手をつけないのでしょう。小泉さんは郵政民営化で、財投改革イコール財政再建という式を5年前につくって、これを国民に売り込んだんですね。アピールして総理になつた人がです。実は何もやっていないということになるんです。

—それでも、郵政を民営化すれば必ず競争原理が働いて、少しはよくなるのではないかですか？

**山崎** それが違う。基本方針を見てくだ

き。今まで、郵政のお金は自分で投資するのではなく、国に貸していただけなんですよ。ところがこれからは、自分たちで投資するんです。「郵便貯金及び郵便保険事業の経営」という項目をよく読んでみてください。「民間金融機関への影響、追加的な国民負担の回避、国債市場への影響を考慮した資産運営を行う」という前置きをしながら、厳密なALM（資産負債総合管理）の下で貸付等も段階的に拡大できるようにする」とうたっているんですね。

### 郵貯は国営保険会社に、 簡保は国営銀行に、

つまり郵貯は銀行になるということなんです。簡保も保険会社になるということなんです。しかも国が最初100%株を持つ。要するに、国営の銀行と保険会社が出来上がるんです。民営化と言いながら国営金融機関をつくっているんです。これ、逆でしょ？ 銀行がつぶれて国営化しているときに、郵貯を新たな国営銀行にしようと言うわけですから、何のた



山崎養世 (やまざき やすよ)

1958年生まれ。東京大学経済学部卒。大和証券を経て米ゴールドマン・サックス社に入社。ゴールドマン・サックス投信およびゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント、ジャパン・リミテッド社長、ゴールドマン・サックス本社パートナーも歴任。同社退社後、シンクタンク山崎養世事務所を設立。2003年11月の総選挙において、「高速道路無料化」および「郵政資金の中小企業への活用」が民主党のマニフェストに採用され、民主党政権が誕生したときの国土交通大臣に指名された。



害を被るわけですからね。国民にとつてリスクが高くなる話なんですよ。

それに、国営の特殊法人である郵貯銀行ができたら、今度は地方の小さい金融機関はどうなるのでしょうか、という問題がありますよね。

本当に今から国営銀行をつくる必要があるんでしようか。官から民へと言いながら、結果として官を増やすことになつているんですね、この基本方針を見ると。

だから、何をやっているのか、意味がなくなっているんです。そんなことをやるのはなくて、財政投融資の問題に真剣に取り組まなければならぬはずです。

——では結局、財政投融資に手を出さなかつた理由というのは何なんですか？

**山崎** 今の永田町と霞ヶ関全体が、財政投融資で食べているからです。利権ですよ。小泉さんは結局、自民党はぶつ壊せなかつた、ということですね。ただ、ひ

とつだけいいこともやりました。民間の不良債権を処理したことです。でも、お上の不良債権問題は処理できなかつた。

ただね、財政投融資の問題に手をつけずに、郵政民営化という法案が通つてしまつたら、国民は郵政改革も財政投融資改革も終わつたと思つちゃうわけですね。それが何よりも悪い。その間に不良債権は増殖し続けるんです。それが、今回の郵政民営化の本当の姿なんです。

山崎 今は才政投融資が才政債といふの  
――それでも、民営化をうたっています。  
民営化されば、財投の問題はどうなる  
んですか？ そのまま残つてしまふのだと  
しようか。

**未経験者が巨額の資金を手にする怖さ**

**山崎** 最大の問題は、年金・郵貯・簡保の360兆円という巨額な国民のお金なんです。国民1人当たり300万円強です。このお金が財務省に預けられているわけです。そして、特殊法人にどんどん貸し込まれているんです。本四架橋公団のように、利払いすらできないようなところに、どんどん追い貸しをしているんです。おそらく戻ってこないし、負債は増えるだけなんですね。

追い貸しをして、さらに負債が増える。聞いたことがありますね。民間の不良債権と同じ構造なんです。処理に時間をかけすぎたために、巨額な費用と時間がかかりこなつて、日本全般本体が地盤沈下

360兆円というお金のすごさという  
のは、メガバンクと比べるとわかります。  
4つのメガバンクの貸付額を全部合計し  
ても、210兆円しかないんです。メガ  
バンク4つの2倍のお金を財務省の官僚、  
100人が審査しているんです。しかも、  
アフターフォローがない。だから返って  
こない。

財投というものの損を止めないとけ  
ないと、僕も思っていますし、小泉さん  
だって言っていたはず。どこかに行っちゃ  
たんですよ。だから、やる意味がないと  
いつてもいい。それよりも害が大きい。  
だって、今まで郵貯は破たんしなかつ  
た。それが彼さんもするべく利用者が被

て穴埋めするんです。  
——では、民営化すると破たんに走りだすと云つことでしょうか。

債になつていて、なんと年間40兆円も発行されているんです。この国債を買うのは、年金・簡保・郵貯がほとんどなんですね。結局、財投改革もしていない。形だけ変えて、構造はそのまま残っているだけなんです。

た。同じことが財務省と特殊法人にも起っている。今整理しないと、大変なことになるんですよ。